

自己評価の観点としてガイドラインに基づきⅠ～Ⅳまでの4つに分類し自己評価を示しました。

Ⅰ保育理念

(子どもの最善の利益の考慮)

子どもを取り巻く全ての人たちの安定したサポートをし、お子さんが園で安心して過ごし発達していける場となるよう努めています。

(保育目標)

- *整った生活リズムで心も身体も健康に過ごす
 - *「やりたい」という意欲「できた」という喜びをたくさんもつ
 - *たくさん愛され、優しい気持ちを育む
- いつも同じ大人が関わり、同じ生活を送ることで情緒の安定を図る。
信頼関係を育むことで自ら主体的、意欲的にあそぶ姿が見られた。

Ⅱ子どもの発達援助

(保育計画・指導計画)

- ・保育所保育指針に基づき子ども一人ひとりを把握できるよう作成しています。
- ・子どもの姿からねらいを立て、週及び月に自己評価と振り返りをするようにしています。

(養護と教育の一体的展開)

- ・子どもの最善の利益や人権を念頭に置き、丁寧な保育、適切な言葉掛け、思いやり、全てにおいて受け止める大人のそばで、安心してあそべるよう配慮しました。
- ・食事が楽しい場となり、子ども自身が選択し満足が得られる創意工夫を図ること、季節に合わせた旬の食材を手に取り体験を通して、食の興味と意欲に繋がるよう意識してきました。

今後より深く乳児に必要な視点と、丁寧な保育の内容を理解し温かな環境の中で安心して過ごせるよう整えていきます。

(人と関わりを育む環境)

- ・身近な大人が温かく見守ることによって、自分たちで解決する姿がみられました。
- ・大人を必要としているサインを見逃さず適切なタイミングを図ることで満足し意欲に繋がっていました。
- ・大人が否定的な見方にならないよう注意を払い人との関係が心地良いと思える環境を配慮してきました。

(環境を通して行う保育)

- ・大人同士の思いやりや認め合う環境の中でこそ、触れたり、興味を示したり探求意欲を示したり伸び伸びする姿がみられました。
- ・動きのよい玩具に対し、子どものあそびを見直し発達に合うものを用意し、それによって再び遊びが広がり感性も育んでいました。

- ・子どもが大人を必要とした時すぐに対応できるよう予め環境を用意し健やかに成長できるよう配慮しました。

Ⅲ保護者に対する支援

(子どもの成長の喜びを共有)

- ・職員と保護者との連絡日誌、送迎時には1日の子どもの様子を分かりやすく簡潔に伝えられるよう、大切な時間として捉えてきました。

(子育てに関する相談・援助)

- ・子育ての悩みを寄り添い、受け止めながらも豊かに成長する喜びを共感し、又家庭と保育生活との違う様子を互いに伝え合ってきました。

(地域における子育て支援)

- ・より子どもが充実して生活できる場となるよう関係機関と連携を図りました。
- ・近所の方のご厚意でさつまいも掘りや中ウイフルーツ狩りをさせてもらい交流を深めることができました。

Ⅳ保育を支える組織的基盤

(健康及び安全の実施体制)

- ・コロナ感染対策として登園時の親子での検温、消毒をし、こまめな換気や扇風機での空気循環を行いました。
- ・体温調節が難しく1日の中で体温の差がある場合はこまめに水分補給や衣服調節で工夫しました。
- ・少しの体調変化に気づき情報共有を行うことで、より適切な健康管理が努められ保護者と共に健康に重視していきました。
- ・心身の健康も視野に、職員間で抱屋し、必要に応じて手厚い対応をしました。
- ・安全対策として早番の時間に、危険を及ぼす可能性が認められたため、部屋を分けるなど、より対策をするとともに、散歩ルートの安全対策、災害における対策も写真を取り入れながら強化していきました。

(職員の質の向上)

子どもの姿ごは、保育計画とねらいを適切な内容に定め、振り返りと共通理解を図っていきます。

定期的な会議や園内研修を実施し、写真を利用し保育の質の向上に努め、掲載することで保護者との連携が充実したものとなるようにしていきます。

施設長の責務

のある子どもたちの無限なる能力と可能性を引き出せるよう環境を整えること、そして一人ひとりが安心して自己肯定感を高められるよう認め、全てを受け止められる身近な大人であることを画一化していきます。